

# 宇宙のまち 大樹町 これまでの歩み



## 1984年(昭和59年) 宇宙産業基地構想発表!



北海道東北開発公庫(現日本政策投資銀行)が北海道大規模航空宇宙産業基地構想を発表

## 1988年(昭和63年) 宇宙の町へ向け研究会発足

大樹スペース研究会が設立される

## 1993年(平成5年) 小型ロケット打上げ実験



文部省宇宙科学研究所が、小型ロケットによる超音速パラシュート実験を実施。パラシュートを搭載した小型ロケットを発射し超音速状態でパラシュートを放出し、開傘状態を記録した

## 1998年(平成10年) 滑走路を全面舗装化!



1995年完成した、転圧滑走路を舗装改良し、LA-4(YS-11機)までの荷重に耐えうる構造へ航空宇宙の実験場として幅広く利用可能に

## 2000年(平成12年) USERS試験



無人宇宙実験システム研究開発機構が、USERS高空落下試験を実施USERS宇宙機はSEMとREMから構成され、REMはSEMから切り離され大気圏に再突入するREMが地球に帰還する際および洋上に浮遊している間に使われる回収系の機能・性能を評価・確認するための実験を実施

## 2004年(平成16年) 格納庫などが整備される



成層圏プラットフォーム定点滞空飛行試験を実施この試験のため、2003年に航空宇宙技術研究所及び情報通信研究機構により、飛行管制棟、格納庫、気象観測装置などが整備される

## 2007年(平成19年)~ 次期固定翼哨戒機エンジン試験



防衛省技術研究本部航空装備研究所が、次期固定翼哨戒機エンジン試験を実施、エンジンの音圧等を測定する「音圧レベル試験」と大型送風機からエンジンに横風をあてて性能を確認する「横風試験」などを実施

## 2011年(平成23年) SNS社 ロケット打上げ



堀江貴文氏が創業者となる、SNS(株)が大樹町で小型液体燃料ロケットの打上げ実験を開始する  
その後、2013年に同社のロケット開発部門となるインターステラテクノロジズ(株) (IST社) が大樹町(芽武)に事業所を開所する

## 2013年(平成25年) 大気球 世界記録更新



JAXAは航空公園にて、「超薄膜高高度気球の飛行性能試験」を実施し、気球到達最高高度の世界記録を樹立した気球は高度53.7 kmまで上昇し、2002年に自身が記録した53 kmの世界記録を更新

## 2015年(平成27年) HTV搭載小型回収カプセル高空落下試験



宇宙ステーション補給機「こうのとり(HTV)」に搭載し、宇宙で得た試料を地球へ送る、小型回収カプセルの高空落下試験が実施された

## 2018年(平成30年) 宇宙交流センターSORAリニューアルオープン!



SORAに子供たちの修学旅行や研修の際の工作体験、講演会・イベント等に対応できる集会室を増築  
また、展示スペースを拡張・改修して展示内容を大幅に刷新

## 2018年(平成30年) IST社観測ロケット「MOMO」2号機打上げ実験



4月の打上げ実験を延期した「MOMO」2号機の打上げ実験を6月30日に実施した  
ロケットは離昇後すぐに推力を失い、地上に落下後、機体および地上施設の一部が炎上した

## 2021年(令和3年) 北海道スペースポート(HOSPO)本格稼働・SPACE COTAN(株)設立



北海道スペースポートの運営を担うSPACE COTAN(株)が大樹町および6つの道内企業(帯広信金、十勝毎日新聞、川田工業、エア・ウォーター北海道、北海道新聞、IST)等の出資により4月21日に設立され、HOSPOが本格稼働した

## 1980年

## 1985年

## 1990年

## 1995年

## 2000年

## 2005年

## 2010年

## 2015年

## 2020年

## 1987年(昭和62年) 北海道総合計画に組み込まれる!



北海道新長期総合計画の戦略プロジェクトの一つに「北海道航空宇宙産業基地構想」が組み込まれ、大樹町が候補地に!

## 1992年(平成4年) 大樹町初の宇宙関連実験実施!



文部省宇宙科学研究所が大樹町で初の宇宙関連実験「グライディングパラシュート実験」を実施。ヘリコプターからグライディングパラシュートを搭載したペイロード部を落下させ、飛行を制御し、あらかじめ設定したターゲットに誘導する実験を

## 1995年(平成7年) 大樹町多目的航空公園竣工



航空宇宙産業基地構想実現への第一歩大樹町多目的航空公園が竣工し、1 km x 30 mの転圧滑走路が整備される

## 1998年(平成10年) 着陸航法系実験



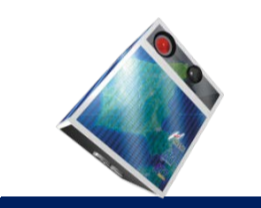
科学技術庁航空宇宙技術研究所と宇宙開発事業団が、HOPE着陸航法基礎実験を実施。HOPE(H-II AOrbitingPlane)は、H-II Aロケットで上げられ、地上に水平着陸する無人宇宙往還機

## 2002年(平成14年) CAMUIロケット打上げ、HASTIC設立



CAMUI型ハイブリッドロケットの最初の技術実験機が大樹町美成地区で打ち上げられる  
同年、CAMUIロケット開発の中心組織、北海道宇宙科学技術創成センター(HASTIC)が設立される

## 2005年(平成17年) 北海道衛星(株)が大樹町へ



北海道に宇宙産業を興すこと、北海道から世界に通用する小型衛星を発信すること、小型衛星技術の他産業への波及による経済効果をもたらすことを目的とする、北海道衛星(株)が旧大樹駅舎に事業所を開所

## 2008年(平成20年) JAXAと連携協力協定締結!



大樹町とJAXA(宇宙航空研究開発機構)が、連携協力協定を締結する

多目的航空公園のうち、JAXA所有施設を大樹航空宇宙実験場とするこの年から、大気球を用いた宇宙科学実験が始まり、これを期に多くの実験が実施される

## 2012年(平成24年) i-Ballデータ受信



(株)IHIエアロスペースが開発し、各種関連実験を大樹町で実施した「i-Ball」のデータ受信が、航空公園で行われた大気圏再突入時のデータ取得及び写真撮影を行い地球へ帰還するという世界初の快挙を成し遂げた

## 2014年(平成26年) 宇宙交流センターオープン!



展示室・集会室を兼ね備えた「大樹町宇宙交流センターSORA」が、多目的航空公園内にオープン  
視察や各種宇宙関連事業の拠点として活用

## 2017年(平成29年) IST社観測ロケット「MOMO」打上げ実験



7月30日、IST社が観測ロケット「MOMO」(全長10 m、直径0.5 m、重量1.2 t)の打上げ実験を実施した  
民間企業単独では初となる宇宙空間到達を目指したが、推定高度20 km時点で通信が途絶したため、エンジンを緊急停止させ実験を中止した

## 2019年(令和元年) 大樹町から初の宇宙へ!!

### IST社観測ロケット「宇宙品質にシフトMOMO3号機」打上げ実験



5月4日5時45分に打ち上げられたIST社「宇宙品質にシフトMOMO3号機」は、打ち上げから240秒後に最大高度113.4 kmまで到達し、日本では初の民間企業単独での高度100km以上の宇宙空間到達を達成した